

# 1. 評価結果概要表

作成日 平成19年10月15日

## 【評価実施概要】

事業所番号	0175700285		
法人名	有限会社 リアン		
事業所名	グループホーム えみな		
所在地	岩見沢市南町8条1丁目4番8号 (電話) 0126-20-1310		
評価機関名	(有)ふるさとネットサービス		
所在地	札幌市中央区北1条西5丁目3 北1条ビル3階		
訪問調査日	平成19年10月18日	評価確定日	平成19年11月12日

## 【情報提供票より】 (19年9月20日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成 15 年 4 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	7 人	常勤 6人, 非常勤 1 人, 常勤換算	6.45人

### (2) 建物概要

建物構造	軽量鉄骨	造り
	2階建ての	1～2階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	22,000 円	その他の経費(月額)	11,000 円	
敷金	有 ( 円)	<input checked="" type="radio"/> 無	(11～4月別途6,000円)	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 ( 円)	<input checked="" type="radio"/> 無	有 / 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり		1,000 円	

### (4) 利用者の概要 ( 10月18日現在 )

利用者人数	9 名	男性	1 名	女性	8 名	
要介護1	1	要介護2	1			
要介護3	5	要介護4	2			
要介護5			要支援2			
年齢	平均	82.8 歳	最低	76 歳	最高	93 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	東町ファミリークリニック・松藤医院・はたて歯科・鍵谷歯科
---------	------------------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

法人名である「リアン」は、「絆」という語源を持ち、利用者・家族・地域社会・職員が深い絆で結ばれ、それぞれの人の心に笑みと平安が保たれることを願う理念のもと、事業所が運営されています。職員は、要介護度が高くとも、豊かな日常生活をいかにその人らしく過ごして頂くかを日々考え、目的を持ちながらの外出支援や回想法などを取り入れ、認知症状の緩和に努めています。また、医療機関との連携や協力体制を整備し、家族の意向によりターミナルケアや重度化の支援が図られています。建物内にグループホームとデイサービスセンターが廊下を挟み併設されており、気軽に通所者との交流ができることも特徴です。

## 【重点項目への取組状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回の評価については、7つの改善課題がありました。権利・義務の明示については家族に分かりやすく明示をし、継続的な研修の受講では、職員が段階的に研修へ参加する機会を確保するなど、一つひとつ真摯に課題に対し取り組まれており、改善に向けて努力されていました。</p> <p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>運営者は、評価の一連の過程を通じてサービスの質の確保や向上に役立てようとする前向きな姿勢が伺われます。評価の意義などを職員に周知して全員で話し合いながら自己評価を実施しています。</p>
	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議では、ケアサービスの実際やホームの実情などの報告をもとに質問や意見交換が行なわれており、メンバーから寄せられる地域の課題についても討議されています。現在、運営推進会議の意義や目的を深めるため、会議のあり方を模索している状況です。今後は、市の担当者の参加を積極的に呼び掛けるとともに、行政としての助言が会議場で得られサービス向上に結び付くよう取り組みを期待します。</p>
重点項目②	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>苦情相談窓口を作り、本人、家族からの指摘や苦情について受け止め解決する体制が整備されています。家族の訪問時や行事協力を得る場面などで、気軽に意見や不安などを話してもらえよう努め、ケアサービスや運営に反映するよう取り組んでいます。</p>
重点項目③	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>自治会の行事参加や地域の方々からのお裾分け、ホーム夏祭りを町内会と合同で開催するなど、開設5年目を迎え交流が深まっています。地元ボランティアの受け入れや、自治会、商店などと連携を図りながら、自然な形のお付き合いができるよう、日常生活における触れ合いを大切にしています。</p>
重点項目④	

## 2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域密着型サービス導入前の平成15年開設時より、「地域社会との絆をより堅い、より深いものにし、大切にしていく」と謳われており、住み慣れた地域での安心した暮らしをささえるための理念が策定され、ホーム内に分かりやすく標榜されている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念については全体で話し合う機会を持ち、具体的なケアについての意見統一や日々振り返りを行なう中で、職員全員が確認をし合っている。ホーム理念をもとにした職員個々のケア理念があり実践に向け取り組まれている。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入し、回覧板のやり取りや公園の清掃、盆踊りなどの町内会行事に参加し、ホーム夏祭りを町内会と合同で開催している。地域の方からの野菜や魚のお裾分けなどもある。利用者は要介護度の高い状況ではあるが、孤立せず、地元の人々とできる限りの交流に努めている。		
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は全職員で取り組んでおり、評価のねらいや活用法について理解し、前回の評価についても話し合う機会を確保している。評価一連の過程を通じ、ケアの振り返りや見直しに取り組まれ、サービスの質の確保に活かされている。		

岩見沢市 グループホーム えみな

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	平成19年2月より4回開催され、サービス提供の実際やホームの実情などを報告し、地域での課題についても議論されている。構成員である町内会、家族の方々の参加は得ているが、市や地域包括職員の参加が得られておらず、行政からの助言等が反映される会議には至っていない。	○	幅広い立場の人が運営推進会議に参加してもらう必要性は認識されているので、市の担当者へ積極的な参加呼び掛けを行なうとともに、行政からの助言が得られ、運営やサービス向上に活かされるよう取り組みを期待する。
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の担当者とは、ケアサービスやホームの現状、介護保険制度について情報を共有し、できるだけ話す機会を確保している。また、社会資源としての役割や市民ニーズに対しては、前向きな姿勢でサービス向上に取り組むことを目指している。		
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月「ホーム便り」を発行し、利用者の暮らしぶりについてエピソードを交えながら知らせている。受診状況などその都度連絡を行ない、金銭管理については定期的に報告がされている。行事や生活の様子もこまめにスナップ写真に収め、積極的に利用者の様子を発信している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族からは、社会的繋がりや継続性への要望など、具体的な意見が出されており、郵便局や商店へ外出する場面作りを設定し、運営に反映させる取り組みを行なっている。また、ホーム内、外部に苦情相談窓口を設けて体制を整えている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	法人内異動や、やむを得ない離職の場合は、職員全員で利用者をサポートし、ダメージの緩和に配慮している。運営者は、職員ができるだけ長期間、勤務できるよう常に相談役となり、馴染みの職員が継続的に支える体制に努めている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	運営者は、職員個々に応じて、研修会や学習会への積極参加を促し受講できるよう体制を整えている。日常の介護場面で職員の力量が高まるよう、車椅子の操作においては、砂浜でのトレーニングを実施するなど、技術的な研鑽を深めている。個人目標評価シートを導入して振り返りやステップアップを図っている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同一法人のグループホームとはさまざまな相互交流が実施されている。本州のグループホームと連絡を取り合う機会も持たれているが、そのほか法人以外でのネットワーク作り、相互訪問活動などの交流や連携への取り組みには至っていない。	○	運営者は、市内の同業者との連携や交流の必要性を認識しているため、サービスの質の向上を図るうえでも、今後、積極的に取り組まれることを期待したい。
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	見学や面談のほかに、希望や状況により体験入居を実施し、本人の納得を得てサービスを開始するなど、個別の利用調整を行なっている。利用者が一日でも早くホームに馴染めるよう、本人の生活歴や心情に配慮しながら信頼関係の構築に努めている。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀れを共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は、日常の家事をともに行なう中で、年長者の利用者から生活の技や生活文化を教してもらいながら過ごしている。利用者が職員に労いの言葉を掛ける場面もあり、暮らしの中でお互いを分かち合い支えあう関係が築かれている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの思いを大切にし、利用者中心のパーソンセンタードケアを徹底し日々の暮らしを支援している。現在不安に感じていることなどを、非言語的コミュニケーションも交えながら把握に努め検討している。		
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	アセスメントは、センター方式を導入しており、一日2回の申し送りでミニカンファレンスを実施し、日々利用者の状況を職員全員で把握してモニタリングを行なっている。家族の意向を聞きながら、その人らしく暮らし続けるための個別具体的な施設サービス計画書をチームで作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は、長期目標6ヵ月、短期3ヵ月の期間を明示し、期間に応じた見直しのほか、変化の兆しに予防的に対応していくためのプラン見直しが実施されている。入居者の状況が終末期に移行した場合、ターミナルケアを計画的に実施する施設サービス計画書の作成までには至っていない。	○	ターミナルケアについての対応は、主治医、看護師、家族、えみな栄町の四者で十分な話し合いを行ない合意形成が図られている。今後は、看取り看護・介護を実施するための施設サービス計画書を作成するとともに、書式についても検討され、体制整備に取り組まれることを期待する。
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	通院支援や医療連携体制のほか、家族や本人の状況を考慮して墓参などの個別外出支援を行なっている。また、認知症対応の居住環境や職員の機能を活かして、自宅で暮らす認知症高齢者にショートステイサービスを提供している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援  本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	希望や状況に配慮して、入居以前からの掛り付け医にも受診できるよう支援している。協力医療機関からの往診や24時間の連絡調整、訪問看護体制を確保し、健康管理記録シートを用いて医師や家族との情報伝達や連携を図っている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有  重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居の際の早い段階から、家族と重度化や終末期について話す機会を持ち、最期をどのように迎えたか意向を確認している。ターミナルケアの要望や意思確認については、その都度各連携機関を交え話し合いの場を持ち、「ターミナルケア要望に関する同意書」をもって同意や共有を図っている。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底  一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は、利用者の誇りを傷つけるような言葉掛けや対応がないよう十分配慮し、医療機関などにおいて本人の情報を取り扱う場合は「個人情報に関する同意書」のもと、法令を遵守してプライバシーの徹底を図っている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ホームの一日の流れはあるが、サービス提供側主体のケアを行わず、本人が望む過ごし方ができるよう努めている。体調がすぐれない利用者には、居室で安楽に食事ができるよう職員が支援をしていた。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の希望や能力を活かしながら、食事一連の作業を職員と一緒にこなしている。ホーム菜園で収穫された食材を利用したお弁当や、玄関前広場での流しそうめん、焼肉などの食事会を取り入れ、食事に変化を付け楽しみなものになるよう工夫している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	個別に入浴日を週2回設定しているが、希望があればその都度対応し、シャワー浴や清拭など状況に応じ支援している。利用者一人ひとりに合った言葉掛けで入浴を促し、入浴剤の利用や職員がともに入り背中を流すなど、安心して入浴が楽しめるよう工夫している。		
<b>(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	要介護度が高く、認知症が進む過程において、いかに利用者が和みながら、喜びや生きがいを感じてもらえるかを職員は日々模索しながら場面作りを行なっている。家事や陶芸、回想法を交えたレクリエーションなど、有する能力を踏まえながら心身の活性に気を配り支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	戸外に出掛け外気に触れる重要性を理解しており、要介護度が高い利用者が多いが、家族の同伴を得ながらさまざまな場所へ目的を持って外出している。日々の買物や散歩のほか、海や牧場、紅葉狩り、初詣など五感刺激を高める機会をふんだんに取り入れ、支援が行なわれている。		
<b>(4)安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	夜間帯は防犯上の理由により、一般家庭と同様に施錠している。利用者の外出傾向の把握や人感センサーを設置して見守りの連携を図り、鍵を掛けずに安全に過ごせる工夫をしている。		

岩見沢市 グループホーム えみな

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	春と秋の年2回、昼夜の時間帯で避難訓練を実施している。消防署による訓練のほか、自主訓練を重ね計画から実施報告に至るまで指導を得ている。現在、災害に備えた救急パックや食料を発注している。災害時における地域住民との連携体制などの取り組みは行なわれていない。	○	地域住民との連携が図られるよう、運営推進会議などで協力を呼び掛け、実践的な訓練や災害時における体制が整備されるよう取り組みを期待したい。
<b>(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一日1300ccの水分量を確保できるよう支援しており、食事摂取量を記載して状態を把握している。とろみ付けなど、一人ひとりに応じた食事の提供が行なわれ、家庭的に調理が行なわれるなか、栄養状態や体重に注意を払い支援している。		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>					
<b>(1)居心地のよい環境づくり</b>					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	台所と居間が一体になった造りは、一昔前の懐かしさを感じられる雰囲気の空間になっており、ソファコーナーはゆったりと利用者が集える場所となっている。浴室は温風暖房が設置され寒さ対策を講じ、長い廊下は歩行訓練にも利用でき、冬場の運動不足解消に役立っている。利用者と職員の手作りの装飾やスナップ写真は、温かみや季節感を醸し出していた。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族の協力や本人の意向のもと、一人ひとりに応じた生活しやすい居室作りがされている。馴染みの家具や本人が大切にしている品々が持ち込まれており、生活用品が利便よく収納され、思い出の品なども思い思いに飾りつけされていた。		

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。